

令和4年度7月 定例教育委員会会議録

令和4年7月19日（火）

山梨市教育委員会

令和4年度7月 定例教育委員会 議事録

令和4年7月19日（火）午後1時30分から、山梨市役所401会議室に召集された。

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 前回議事録署名
- 4 協議事項
 - (1) 学校現場の現状と課題について
 - (2) その他
- 5 報告事項
- 6 連絡事項
- 7 閉会

○出席者

教育長	嶋崎 修
教育長職務代理者	窪田 新治
教育委員	武井 茂
教育委員	矢野 眞由美
教育委員	古屋 勝也

○欠席者

なし

○事務局職員出席者

学校教育課長	磯村 賢一
生涯学習課長	角田 弘樹
学校教育課 指導主事	小串 吾郎
学校教育課 学校教育担当リーダー	星野 正裕
学校教育課 学校総務担当リーダー	小池 かおり
生涯学習課 生涯学習担当リーダー	根津 道仁
学校教育課 学校総務担当（議事録作成者）	小田切 咲紀

4 協議事項の内容

司会 磯村課長

議事の進行を教育長にお願いする。

教育長

議事に入る。

(1) 学校現場の現状と課題について、1学期の状況を踏まえ、事務局から説明をお願いする。

学校教育課 磯村課長 資料1に基づき説明

- ・コロナ禍における対応及び特別支援を要する児童生徒への対応により多忙化の解消が難しくなっている。
- ・通常学級の中に特別支援を要する状態に近い児童がおり、学級内の混乱や授業の遅れの原因となっている事例がある。
- ・全体の児童生徒数が減少している一方、特別支援を要する児童生徒数は増加している。

小串指導主事より補足

- ・対応教職員不足により職員室に教員が誰もいない場面があり、危機管理対策が十分とは言えない状況だ。

武井委員

昨年の学校訪問では状況がつかめなかったが、危機的状況と言える。管理職も関わらなければならないほどの子どもがいることや授業が進まない状況に対し、学校・教育委員会ではどういう対応をしているのか。よく課題に対して人員を増やせばできるというが、特別支援を要する子どもの中には一対一で対応しなければならない子どももおり、年々増加している現状では難しいだろう。課題の検討や分析のために、漠然とした話ではなく、具体的な事例と対応を教えてほしい。その上で多忙化の解消とは誰に対して行っていくのか考えるべきだ。

小串指導主事

市内の事例を説明。(非公開)

武井委員

基本的に親自身が実態を把握しなければならない。自分の子どもが学校でどういう状況を作っているのかを理解してもらえれば、特別支援に対する理解も得られる。また、学校の授業が成立しない場合は親自身に来て監督をしてもらう必要があるだ

ろう。まずは具体的な取り組みを作って、何が課題でどう取り組んでいるのかどんな成果が出たのかを報告してほしい。それでも上手く行かないならば、市長に報告してお金がかかろうと人的配置や質的な対応に取り組まなければならない。

矢野委員

父兄に納得してもらうため、学校に来て実態を見てもらうべきだ。まずは、こういう状況で学校としてはこうしたいが協力してもらえないかと、保護者と話をして説得してほしい。また、市としては他市や他県の同様の問題を調べて対応策を考え、方向性を定めてほしい。

窪田職務代理

人的配置は大事だが今すぐに対応できるものではない。今そのクラスや子どもたちをどうするかという問題には具体策が必要だ。人員不足は重々わかるが、足りない中でどう役割分担をするか、保護者を含めた役割分担を考えなければならない。学校だけで手が足りなければどんどん保護者に手伝ってもらい、該当児童の保護者や学級の保護者に順番に来てもらったり支援員・担任・管理職がそれぞれどんな役割をするかをちゃんと決めたりしたほうが良い。その学校でどの学級もそういう子どもがいてやりきれないのであればまた考えなければいけないが、とりあえず大変な所を手当していくなれば役割分担が大事だと思う。その上で定期的に反省をして足りない所を検討し、人的配置が足りないならば教育委員会全体で考えていくということになる。

県教委で学級崩壊の担当をしたことがあるが、特別支援を要する状態に近い子どもや発達障害を持つ子どもをフォローしきれずに崩壊してしまう例はいくつも見た。そういう学級が立ち直るときは役割分担と管理職の積極的な介入が必要だった。

教育長

全国市町村教育委員会連合会山口大会では、コミュニティ・スクールの方に廊下に立ってもらうだけでも効果があるという話があった。検討していきたい。

古屋委員

問題を起こす子どもの中には特別支援を要する状態に近い子どもがいると聞く。学校でも三者懇談の時間を長く取るなど対応をしているようだが、それだけでは限界があるので、学校と保護者の連携が必要だと思う。

教育長

子どもたちの要因以外に、担任の指導力や経験不足、管理職の管理能力不足など複数の要因が重なると問題が起こる。また、少人数学級の導入により今まで1クラスだった人数が複数クラスに分かれたことで、担任同士の連携不足も要因になって

いる。

小串指導主事

補足だが、教員の人手不足には暴れている子どもの補助に入る場合の他に、別室登校している子どもの監督に行く場合もある。通常学級に通えず保健室や空き教室で勉強している子どもを一人にしておくわけにいかないため、空き時間の教員がそこに付いていることも多い。

窪田職務代理

中学校では授業のない教員がいるためそういう対応はよくある。だが、教室数にも教員数にも物理的な限界がある。学校でも最大限の対応をするが、できないことはできないと子どもにも教えて保護者にも理解してもらう必要がある。

教育長

秋の学校訪問では普段通りの学校の様子・課題を委員の皆さんに見てもらいたい。

教育長

次に（2）その他、事務局から何かあるか。

事務局

なし。

教育長

以上で議事を終了する。

議事終了